

# 平成 19 年度 学校法人 文化学園 事業報告書

## 目次

### 1 法人の概要

### 2 平成 19 年度事業報告書

- < 教育部門 > 学校法人 文化学園  
文化女子大学  
文化女子大学短期大学部  
文化ファッション大学院大学  
文化女子大学室蘭短期大学  
文化女子大学附属すみれ幼稚園  
文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園  
文化服装学院  
専門学校 文化服装学院 広島校  
文化外国語専門学校
- < 附属機関 > 図書館  
服飾博物館  
ファッションリソースセンター  
知財センター
- < 収益部門 > 文化出版局  
文化事業局
- < 学園本部 > 学園総務本部  
学園経理本部  
監査室

### 3 財務の概要

# 1 法人の概要

学校法人 文化学園 大臣認可年月日 昭和 26 年 3 月 5 日  
〒151-8521 東京都渋谷区代々木 3 丁目 2 2 番 1 号  
03 - 3299 - 2111

## 設置する学校・学部・学科等（平成 19 年 5 月 1 日現在）

文化女子大学 大学院 （東京都渋谷区）		生活環境学研究科博士後期課程	H 1 年度開設
		生活環境学研究科博士前期課程	S 47 年度開設
		生活環境学研究科修士課程	H 10 年度開設
		国際文化研究科修士課程	H 10 年度開設
文化女子大学 （東京都小平市）	服装学部	服装造形学科	H 12 年度開設
		服装社会学科	H 12 年度開設
文化女子大学 （東京都渋谷区）	造形学部	生活造形学科	H 12 年度開設
		住環境学科	H 12 年度開設
	現代文化学部	国際文化学科	H 3 年度開設
		英語英文学科	H 3 年度開設 （募集停止）
		健康心理学科	H 12 年度開設
		国際ファッション学科	H 16 年度開設
文化ファッション大学院大学 （東京都渋谷区）	ファッションビジネス研究科	H 18 年度開設	
文化女子大学短期大学部 （東京都渋谷区）		服装学科	S 25 年度開設
		生活造形学科	S 40 年度開設
		国際文化学科	S 62 年度開設 （募集停止）
文化女子大学室蘭短期大学 （北海道室蘭市）	保育科	S 44 年度開設	
		コミュニティ総合学科	H 17 年度開設 （募集停止）
	教養学科	S 58 年度開設 （募集停止）	

文化女子大学附属すみれ幼稚園  
(東京都多摩市) S 47 年度開設

文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園  
(北海道室蘭市) S 51 年度開設

文化服装学院  
(東京都渋谷区)

服飾専門課程	S 51 年度開設
ファッション工科専門課程	S 55 年度開設
ファッション流通専門課程	S 55 年度開設
ファッション工芸専門課程	S 58 年度開設
部服飾専門課程	S 51 年度開設

文化外国語専門学校  
(東京都渋谷区) 語学専門課程 S 55 年度開設

専門学校広島アートファッションアカデミー  
(広島県広島市) 家政高等課程 S 51 年度開設  
(募集停止)

文化服装学院 広島校として平成 20 年度より開校

広島高等洋裁女学院  
(広島県広島市) S 21 年度開設  
(募集停止)

平成 19 年 10 月廃止認可申請

### 設置する学校・学部・学科の入学定員、学生数（平成19年5月1日現在）

設置する学校・学部・学科	入学定員	収容定員	現員
文化女子大学 大学院	34	70	74
文化女子大学 合計	920	3680	4066
服装学部	400	1540	1874
造形学部	300	1180	1294
現代文化学部	220	960	898
文化ファッション大学院大学	80	160	99
文化女子大学短期大学部（専攻科含む）	480	920	808
文化女子大学室蘭短期大学	60	190	101
文化女子大学附属すみれ幼稚園	90	300	253
文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園	35	105	63
文化服装学院 合計	2320	5080	5197
服飾専門課程	800	1320	1364
ファッション工科専門課程	490	1480	1646
ファッション流通専門課程	730	1380	1237
ファッション工芸専門課程	140	420	336
部服飾専門課程	160	480	614
文化外国語専門学校 語学専門課程	420	600	292
合計	4439	11105	10953

\* 文化外国語専門学校は10月期入学があるため、10月の期首在籍とした。

\* 専門学校広島アートファッションアカデミー、広島高等洋裁女学院は休校中のため上記に含まず。

### 教職員の概要

設置する学校	専任教員	専任職員
法人本部	0	45
文化女子大学	172	105
文化ファッション大学院大学	20	5
文化女子大学短期大学部	35	25
文化女子大学室蘭短期大学	17	10
文化女子大学附属すみれ幼稚園	13	1
文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園	4	0
文化服装学院	219	58
文化外国語専門学校	20	12
合計	500	261

## 役員の概要（平成 20 年 3 月末現在）

理事長	大沼 淳	文化女子大学学長、文化ファッション大学院大学学長 文化服装学院学院長
常任理事	大沼 聡	文化服装学院副学院長、文化外国語専門学校校長
理事	岸原 芳人	学園総務本部長、文化事業局長
理事	鈴木 昭伯	文化出版局長
理事	濱田 勝宏	文化女子大学副学長、教授
理事	大澤 幸夫	文化女子大学事務局長
理事	佐川 秀夫	学園経理本部長
監事	閏間 幸雄	
監事	永野 義一	弁護士

## 評議員の概要（平成 20 年 3 月末現在）

### 1号評議員（理事会選任）

岸原 芳人	理事、学園総務本部長、文化事業局長
鈴木 昭伯	理事、文化出版局長
濱田 勝宏	理事、文化女子大学副学長、教授
佐川 秀夫	理事、学園経理本部長
澤田 知子	文化女子大学造形学部長、教授
青柳 宏	文化女子大学室蘭短期大学 主事、教授

### 1号評議員（職員推薦）

広川 妙子	文化女子大学教授
佐藤 眞知子	文化女子大学教授
坂場 春美	文化服装学院教授
高久 恵子	文化服装学院教授
品田 陽子	文化女子大学教務部長
原 敏夫	学園総務本部次長、総務部長
若林 みどり	文化出版局総合生活誌編集部長
品田 陸雄	文化事業局次長

### 2号評議員（卒業生）

伊藤 綾子	紫友会会長 ミネルバ工房社長
池田 和子	文化女子大学教授
小杉 早苗	文化ファッション大学院大学教授
山田 倫子	

### 3号評議員（学識経験者）

高橋 和夫	文化女子大学教授
田村 照子	文化女子大学教授、文化・衣環境学研究所長
野原 明	文化杉並学園文化女子大学附属杉並中学校・高等学校 校長
児島 則夫	文化長野学園文化女子大学附属長野高等学校 校長 文化女子大学長野専門学校 校長
荒井 健二郎	文化女子大学現代文化学部長、教授

## 2 平成19年度文化学園の事業報告

学校法人文化学園は、さまざまな変貌を遂げていく社会情勢や私立学校を取り巻く学校法人制度の変革、少子化等の厳しい教育環境の中で、私学としての公共性、自主性の意味合いを改めて認識しつつ、21世紀におけるわが国の服飾文化や生活造形の領域、そしてそれに関連する科学の分野において、当学園が与えられた社会的・教育的使命をカリキュラムの中で創造・改革し、文化学園独自の教育を作り上げ、主にファッション産業を視野に置いた人材育成を担っていく。

このために学園は常に新しいものを創造し得る高度な人材育成を目指す教育機関として、平成19年度は各校の教育と研究所や収益事業部門等の要素と知恵を融合し、グローバル化、イノベーションの推進に取り組み、その結果としてクリーンな教育を目指すことを重点課題とした。

### 文化学園

#### 1. IFFTI参加校や海外提携校等とのコラボレーションの中で、グローバルな視点での創造を図る。

##### 1) 文化女子大学

台湾省の実践大学（高雄キャンパス）、樹徳科技大学、韓国の青江産業文化大学等が新都心キャンパスを中心に、語学や専門科目のみならず、日本の文化や料理等の研修を実施。

コラボレーション科目では、本学の学生が提携校であるアメリカのベルビューコミュニティカレッジ、台湾省の実践大学（高雄キャンパス）、韓国の青江産業文化大学にて語学、文化研修を行う。

##### 2) 国際交流センター

デンマーク大使館との共同イベントとして、世界的に著名なデンマーク人デザイナーでブランド開発者としても知られているピーター・イングアセン氏による講演会を実施。

国立スウェーデン・テキスタイル大学（IFFTI）からソークエスト博士を招聘し、本学学生を対象としたワークショップとセミナーを行い、英国、ロンドン・ファッション大学（IFFTI）から、バツシャ・スクツニッカ教授が来校し、ファッショントレンドについてのセミナーを行う。

米国・ニューヨーク州立ファッション工科大学と英国・ノッティンガムトレント大学の留学プログラムを現代文化学部学生に加えて新宿キャンパスの服装学部の学生も対象とした。

## 2. 教育界やファッション産業界とのコラボレーションや相互の交流の中から新しい教育を創造する。

- 1) 文化女子大学では平成19年度の入学生より「キャリア形成教育科目」を新設し、その実践編として3年次のインターンシップを選択の単位とした。
- 2) 同大学院では信州大学と連携して新コース「国際ファイバー・ファッションマネジメントコース(仮称)」の開設を検討。
- 3) 文化ファッション大学院大学では新宿伊勢丹において次世代のファッションを担う学生代表のショーとして、ファッションデザインコースの2年生10人がショーに参加した。また、経済産業省の「地域資源活用型研究開発事業」に提案した「八王子産多摩織等の技法を用いた成形織・ブリーツ織の研究開発」が採択され、産官学「(株)みやしん、都立産業技術研究センター、本学」の共同研究を進めた。
- 4) 文化服装学院では平成20年度に向けファッション流通課程のビジネス専攻をストアマネジメント専攻としてファッション企業との共同事業でカリキュラムを変更した。また、今年度は産官から18の共同研究やコラボレーションの要請があり、学生の指導を含め、その対応を行った。

## 3. 文化服装学院のファッション流通専門課程の改革

平成18年度から課程の改革を行ってきたが、19年度は20年度に向けてファッション流通専攻科をファッションディレクター専攻、ビジネス専攻の2専攻から、ファッションディレクター専攻、ストアマネジメント専攻、ファッションメディア専攻の3専攻に改変する準備年とした。この専攻は他の課程からの進学が可能として学内進学相談会を行い、学生に周知させた。

## 4. 文化服装学院 広島校の開校

広島キャンパスでは、専門学校 文化服装学院 広島校として校名変更を行い、家政専門課程にアパレルデザイン科とトータルファッション科を置き、平成20年4月開校に向け学生募集を開始した。なお、各種学校の広島洋裁高等女学院は廃止とした。

## 5. 文化ファッション大学院大学の教育環境の整備

平成19年度が完成年度となるため、平成20年度以降に向けて更なる教育環境の整備と教育の充実を図るべく検討を重ねた。カリキュラムの改変を行うとともに、平成21年度から2専攻4コースを2専攻3コースとし、ファッション技術経営コースの授業科目を選択科目として組み込んだファッションテクノロジーコースを新しいコースとして設置するため、学生の希望進路に沿った履修指導を行っていく。

## 6. 文化女子大学室蘭短期大学及び附属幼稚園の今後の運営を検討

短期大学については平成20年3月末にコミュニティ総合学科の2年生が卒業したため、この学科を廃止し、平成21年3月の保育科の学生の卒業を待って保育科を廃止、閉校の予定とする。

附属幼稚園においては、室蘭市民の嘆願を受けて、存続させることとした。

## 7. 文化服装学院通信教育50年

平成19年度は文化服装学院の通信教育が始まって50年の節目にあたり、11月1日に生涯学習・通信教育祝賀会、50年史の発行、ヴィオネ研究による特別展などを実施した。

## 8. 教育系ネットワークを活用し、学园内IT関連の第 期整備を推進

### 1) 学生ポータルサイトの構築・運用開始

全学生へのメールアカウントの付与・ポータルサイトを活かした学生への効率的な情報提供のサービスを構築した。19年度は大学が先行して運用を開始した。

### 2) 附属機関データの有効活用

学内WEB公開に向けて各機関(博物館・図書館・ファッションリソースセンター)のデータベース環境を調査した。各機関のデータフォーマットが異なることから、可能な限り一元化する方法を検討。

### 3) 大学事務システムの再構築

各部署とのシステム再構築のための意見をまとめ、中間報告書を作成した。

WEB履修・WEBシラバスの導入も含めオープン化に向けての準備・検討を進めた。

### 4) インターネット・情報セキュリティへの取り組み

情報漏洩対策の一環としてメール検疫(情報ログ閲覧)システムの構築。

## 9. 八王子総合グラウンドおよび八王子テニスコートの一部売却

八王子市の創価大学より総合グラウンドの購入希望があり、学園としての利用率、経費面、利便性等を検討し、総合グラウンドとクラブハウスを売却することとした。また、関連として文化杉並学園に八王子のテニスコートの内6,351㎡を売却した。

## 10. 収益部門

学園運営面の安定を図る意味でも収益部門の体制強化は重要事項となっている。

文化出版局においては、昨年度は装苑、ミセスの周年記念があり、売上増に貢献したが、平成19年度では出版業界、広告業界全体の不振もあり、厳しいものが予測されていた。

このため、売上原価の削減及び営業収入の予算達成を最優先課題とした。雑誌部門にお

いては広告・販売売上は前年より減少したが、差引利益では前年比約 6000 万円の改善が出来た。しかしながら、書籍部門の売上が大幅に落ち込み、その結果として局全体の経常利益を悪化させてしまった。書籍部門の販売売上の立て直しと利益率の改善が平成 20 年度の文化出版局における最優先課題となる。

文化事業局の購買部については学生数が減少傾向の中、昨年並みの実績を維持することができた。

ビル研修旅行部の内、文化北竜館、軽井沢山荘は、宿泊者の増加による収益改善が見られ、ビル事業については順調に昨年並みの収益性を確保できている。

収益部門としては学校に 5 億円の寄付を行った。

### 1 1 . 寄付金の募集

企業等から寄付金を募り、教育研究及び育英資金等とするため、寄付金の募集を行うべく検討。

### 1 2 . 監査室の設置

平成 20 年 1 月から学園に内部監査を主務とする「監査室」を設置した。

私学法の一部改正によりガバナンスの強化が問われ、管理運営制度の改善や財務情報の公開等が行われている中で、法人の目的達成のための取り組みを強化するために理事長直轄のものとして設置した。

### 1 3 . 留学生の募集強化

平成 19 年 5 月で 1,167 名であった本学園の留学生数が、平成 20 年 4 月時点で約 12.5%増となる。特に韓国から文化服装学院への出願が増え、韓国籍留学生数が 484 名から 589 名と 21%増と顕著であった。今後も韓国、台湾、中国を中心に留学フェアなどを始めとする積極的な広報活動を戦略的に展開していく。

文化服装学院韓国留学生会によるファッションショーに合わせて、本学園設置 4 校合同による留学相談会（2008 年 3 月 28 日）がロッテワールドホテルで開催され、高校生・大学生を中心に 1,500 名余が来場した。

## 部門別事業報告

### 教育部門

#### <文化女子大学・文化女子大学短期大学部>

##### 1. 教育、授業関連、学科編成

###### 1) キャリア形成教育の充実

服装学部・造形学部・短期大学部では平成 19 年度入学生から入学から卒業までの一貫したキャリア形成教育を行えるよう、フレッシュマンキャンプとコース研修旅行を見直し、「キャリア形成教育科目」を新設した。

###### 2) 造形学部プレゼンフォーラム、卒業研究学外展等を推進

「造形学部プレゼンフォーラム」の開催及び冊子製作、「卒業研究展」及びその学外展示等を行った結果、造形学部の特色ある教育への客観的評価を得ることができた。

###### 3) 大学院に新コースを設置の準備

信州大学と連携しての「国際ファイバー・ファッションマネージメントコース(仮称)」開設に向けて、検討と準備を行っている。

###### 4) カリキュラムに卒業生・学生の声を反映できる体制の検討。

##### 2. 教職員の研究、研修

###### 1) 文化・衣環境学研究所、文化・住環境学研究所等、本学の教育にとって必要な共同研究体制の構築と推進。

###### 文化・衣環境学研究所

英文論文を含む総計 24 件の論文・研究発表の実績を上げた。また、科学研究費補助金の採択 3 件、外部企業からの委託・共同研究申請 10 件について各研究を実施し、報告した。

###### 文化・住環境学研究所

生活造形学科・住環境学科の共同活動を推進する方針を確認するとともに、複数の共同研究を行い、教材開発等にも積極的に取り組んだ。この成果については、学内研究発表会、各種学会等で公表した。

###### 2) 文化・服装学総合研究所の成果

共同研究拠点の整備について検討を行い、報告書を作成した。

共同研究拠点として「和の衣文化研究部会」を立ち上げた。

シルクファッション振興研究部会の研究会を 6 月、7 月に本学で開催(財)大日本蚕糸会より補助金の交付を受けた。

###### 3) 「学生指導教職員研修会」の研修内容及び研究委員会の教員研修等を見直し、

平成 19 年度より研修会の名称を「全学 F D ・ S D 研修会」と改称し、F D ・ S D 活動を含めた研修会とした。4 月初めに学長、各学部長から本年度の方針、各研究所長から活動方針、ハラスメントに関する講演等を行った。また、教員、事務局職員が合同となった分科会を行い、「本学の学生支援における課題と今後の教員・職員のあり方について」をテーマとし、それらをまとめた冊子「平成 19 年度文化女子大学文化女子大学短期大学部 全学 F D ・ S D 分科会報告書」を作成し、全員に配信。各委員会・部署等で問題提起された部分に関して自己点検を行い、結果は自己点検・評価報告書に掲載した。

#### 4 ) F D 活動の活性化と推進

前項の「全学 F D ・ S D 研修会」のほか、今年度の研修会はハラスメント防止委員会と学生生活委員会との共催の形式をとり、両委員会の重点事項について専門の立場からの詳細な解説がなされた。

分科会においては教員と事務職員が混合のチームを編成し、全学ベース・学部ベース学科、コース及び事務局に関する問題点や要望等について話し合いを行い、全分科会ごとの報告書にまとめ、改善の方策に取り組むこととした。

#### 5 ) S D 活動の活性化と推進

次の 3 つのテーマについて取り組んだ

「学園の I T 化計画に対応する大学事務局各部門における I T 活用と業務の合理化」学園全体の I T 推進計画とともに進行し、学生ポータルサイトの導入や事務部門に設置したサーバーの活用による情報の共有など、一定の成果を上げることができた。

「大学事務局各部門における危機管理に関する取り組み」

災害時の救援対策、防災対策に関する講習会に参加し、A E D の使用体験など、具体的研修により、職員の危機管理についての認識レベルを高めることができた。

「平成 19 年度 F D ・ S D 研修会、分科会の報告についての検討」

研修会を通じて提示された諸問題について、事務局各部門で対応策や改善策について多くの意見交換を実施し、今後の運営に関わる改善・改革の共通認識を持つことができた。この結果は事務部門の意見を集約した「全学 S D 委員会報告書」をまとめ、F D 委員会に参考資料として提出した。

### 3 . 教育支援プログラム等の申請

1 ) 現代的教育ニーズ取組支援プログラム ( 現代 G P ) 特色ある大学教育支援プログラム ( 特色 G P ) に対し服装学部、造形学部、短期大学部が数件の申請を行ったが、採択にいたらなかった。

2 ) また、特色ある大学教育支援プログラム ( 特色 G P ) に選定 ( 平成 16 年度 ~ 平成 18 年度 ) されていた本学の文化祭の取り組みについて報告書 ( D V D 含む ) を制作し、大学のホームページにも掲載すると共に、平成 19 年度の文化祭では、報告

書を学外来訪者に広く配布した。

- 3) 「子供から高齢者までのウェルビーイング - ライフスタイルコミュニケーターを育成し地元住民を元気にする取組み - 」(現代文化学部)の3年目の計画について実施し、児童の健康教育や高齢者の生きがい作りのプログラムを充実させるという目標に沿って活動を行った。
- 4) 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(仮称)申請を検討する中で、造形学部で卒業生の組織化、キャリア支援イベント開催、ホームページの活用など、計画通りの成果を得た。現代 GP への申請は見送ったが、高度化推進計画を活用して推進することができた。

#### 4. 国際交流の推進

- 1) 7月に台湾省の實踐大学(高雄キャンパス)、樹徳科技大学、韓国の青江産業文化大学等が新都心キャンパスを中心に研修を実施した。授業は専任教員が担当し、語学や専門科目のみならず、日本の文化や料理等の研修を行った。
- 2) 9月に実施したコラボレーション科目では、本学の学生が提携校であるアメリカのベルビューコミュニティーカレッジ、台湾省の實踐大学(高雄キャンパス)、韓国の青江産業文化大学にて語学、文化研修を行った。提携校の在學生とも授業等を通して交流し、いずれも有意義な研修となった。

#### 5. 学生募集、広報活動

- 1) 「AO入試」「推薦入試」「一般入試」の三種類の入学試験のあり方、より戦略的な実施方法及び学生募集の方策等について検討。  
一般入試A日程において文化服装学院広島校を試験会場として使用することを検討し、平成20年度に実施することを決定した。  
文化祭を進学フェスタと位置づけて広報活動することにより、高校生の参加者数及び個別相談者数を前年度の文化祭よりも増加させることができた。
- 2) 平成20年度1年生からの、学部4年間・短大2年間の学費の見直しを行う。  
他大学と比較し、入学時の学納金が高かったため、入学生確保のために平成20年度生から入学時の入学金を減額し、その見合い分相当の授業料を改定した。
- 3) 定員数の見直し。  
AO入試・推薦入試等の応募状況を鑑み、定員数が適正なものとなるよう、平成20年度からの定員数を見直した。

<学部・学科>	<旧定員>	<新定員>	<増減>
服装学部 服装造形学科	300	360	+60
服装社会学科	100	140	+40
造形学部 生活造形学科	150	140	-10
住環境学科	150	120	-30

現代文化学部			
	国際文化学科	50	30 - 20
	国際ファッション文化学科	120	100 - 20
	健康心理学科	50	30 - 20
	大学計	920	920 ± 0
短期大学部			
	服装学科	300	200 - 100
	生活造形学科	140	60 - 80
	短大計	440	260 - 180

## 6. 教育環境整備

### 1) ITの充実

大学システム再構築検討委員会を中心に大学システムオープン化に向けて検討した。学生サービスのさらなる向上と事務業務の効率化を課題として従来の汎用機システムと、パッケージシステムについて今後も継続して比較検討を行い、将来のWeb履修登録等に向け業務分析を行った。

学内教育ネットワークの整備が完了し、主だった講義室には全て情報コンセントを配備し、教員や学生によるネットワークの利用や、教員による講義への活用がどこの講義室においても可能となった。また学生ホールにも多数の電源コンセントや情報コンセントを配備し、学生が自由に学内の教育ネットワークやインターネットを利用できる環境を構築し、いつでも授業の課題に取り組めることが可能となった。

## 7. 自己点検・評価

自己点検・評価委員会が中心となり、今年度の課題、取組結果と点検・評価、次年度の課題を記載した「平成18年度 文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書」を作成、各研究室・委員会に配布した。

## 8. いいやま匠大学の取組みについて

平成19年度 財団法人地域総合整備財団<ふるさと財団>の「大学と連携した地域づくり」助成事業に採択された「いいやま匠大学」を文化女子大学新都心キャンパス、長野県飯山市の北竜館キャンパス、阿部工房キャンパスの3つのキャンパスを中心に、設立した。

文化女子大学としては、教員と学生を中心に和紙工芸科への協力として内山紙を使った服、ランプシェード、インテリア小物等の作品作りを行い、11月の文化祭において成果の発表を行った。また、コラボレーション科目、留学生研修、同窓会（紫友会）等で多数の在学学生、卒業生、職員が阿部工房において紙漉き実習を行い、宿泊は北竜館を利用するなど、全学的な協力体制のもと、大きな成果をあげることができた。

## <文化ファッション大学院大学>

### 1. 教育、授業関連、学科編成 等

1) 完成年度終了後の平成 20 年度以降に向けて、専攻・コースの位置づけ、及び「ファッション技術経営コース」について検討するため、定期的なカリキュラム委員会を実施した。

平成 21 年度からファッションクリエイション専攻のファッションテクノロジーコースを新しいコースとして設置し、これまでのファッション技術経営コースの授業科目を新しいコースに選択科目として組み込み、学生の希望する進路に沿った履修指導を行なっていく。

2) 平成 20 年度から展開する、授業科目の追加・削除・名称変更を行なった。

ファッションクリエイション専攻では、国内のトップレベルの洋裁技術者・ファッションデザイナー・ファッションジャーナリスト・バイヤーなど、ファッションマネジメント専攻では、アパレル企業の経営者・マーケティング担当者・システム担当者・経営コンサルタント・ファッションデザイナーなどとして活躍する方々の特別講義を実施した。

3) 3 月 13 日、本学初めての「学位記授与式」を実施した。式典には、学外から本学運営委員の方々に出席いただき、42 名の第一期修了生を送り出した。

### 2. コラボレーションの実施

1) 9 月に伊勢丹新宿店本館屋上において、Japan Next Generation in ISETAN のイベントが催され、そこで本学ファッションクリエイション専攻ファッションデザインコース 2 年生が参加した。次世代のファッションを担う学生代表として、10 人のデザイナーが自己のコンセプトに基づいたファッションショーを披露した。

2) 修了年次生の選抜者 8 名が、プロフェッショナルバイヤー向け展示会 (rooms 開催) に参加し、卒業後における企業との接点を増やすことができた。

3) 8 月、経済産業省の「地域資源活用型研究開発事業」に本学が提案するプロジェクト「八王子産多摩織等の技法を用いた成形織・ブリーツ織の研究開発」が採択され、閨間教授を中心に産官学 [(株)みやしん・都立産業技術研究センター・本学] による共同研究体制を組織し、研究を進めた。

### 3. 国際交流

小杉研究科長が 6 月にウィーン市(オーストリア)モーデショーレ校からの依頼で、大学卒業コレクション作品の審査、講演、各種イベントに参加した。このような機会を通して、本学と世界との連携が強化され、グローバル化の展開につなげて行く。

### 4. 学生募集、広報活動

- 1) ホームページの充実を最優先とし、本学の概要だけでなく研究科・教員・施設等も紹介し、また教員や学生のインタビュー動画をアップしてわかりやすいサイトを構築した。広告のサイトと契約してホームページにリンクさせ、昨年同様本学を一般に認知させることに重点を置いた。
- 2) 学外向けの入試説明会を7月と12月、2回実施した。特にマネジメント専攻への応募者獲得のために、首都圏大学の経営学部、商学部に対してポスターと説明会案内を発送し学生の来場を促した。学内向けには、大学、学院において説明会を実施した。

#### 5. 就職対応

修了年次の学生のために専任教員、客員教授の協力を得て企業訪問・就職先開拓をした。また、ファッション企業の資料、情報の共有を含め、文化服装学院の就職指導室に本学担当者を置き、学生の求人資料閲覧と就職相談に対応した。

#### 6. 教育環境整備

I館2階にコンピュータ実習室、4階にアパレルCAD実習室、地階にデザインコース2年生の実習室を設置。各専攻自習室を4階に移動しスペースを広げた。

### <文化女子大学室蘭短期大学>

#### 1. コミュニティ総合学科の廃科

コミュニティ総合学科の在校生が全員卒業したので、平成19年3月31日付で文部科学省へ学科廃止届出書を提出し、廃科とした。

#### 2. 保育科の運営

平成20年度より保育科の学生募集を停止しており、在校生の教育に全力を傾注し、全員の卒業を最優先する。

### <文化女子大学附属すみれ幼稚園>

#### 1. 幼児教育関連

- 1) 各学年の教育週数は年間39週を下らず、一日の教育時数は4時間として実施した。
- 2) 保育内容は、健康・人間関係・環境・言葉・表現とし幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導。
- 3) 懇談会や個人面談、園だよりや学級通信を通して保護者との連携を図った。

#### 2. 園児募集

- 1) 平成19年度は、新入園児を年少70名、年中、年長は進級児と新入園児計105名を想定し、園児募集を行ったところ年少66名、年中、年長の進級児および新入園児合計183名となり、総園児数は249名となった。

- 2) 未就園児行事「なかよしタイム」については、年6回、休業日に実施した。
- 3) 一般公開保育については、夏休み明けに実施。
- 4) 地域のミニコミ紙やガイドブックへの掲載や広告看板などを設置した。
- 5) 運動会や盆踊り会などに未就園児を招いたり、本園見学への問い合わせや見学者に対応した。

### 3. 施設、備品関連

- 1) 地震対策としてガラス飛散防止フィルム、建物耐震検査等を実施。
- 2) ブランコの新設や施設備品の整備等。

### 4. 人員計画

昨年度より一人増やし、22名体制で運営。

## <文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園>

### 1. 附属幼稚園の運営

室蘭短大の募集は停止したが、室蘭市民からの強い継続要請を受けて、附属幼稚園は継続するとし、募集活動を行った。平成20年4月には3歳児クラス10名(新入)4歳児クラス16名(9名新入)5歳児クラス28名 総数54名となる。

## <文化服装学院>

### 1. 学科編成・計画

今年度は、平成18年度における流通専門課程2年次の変革に続き、上級である3年(専攻科)の充実をはかるため、20年度の専攻科として従来のファッションディレクター専攻に加え、ビジネス専攻を(株)ワールドとの共同事業としてストアマネジメント専攻に改変して新展開をはかることとした。同様にファッション情報科を改変し、3年次にファッションメディア専攻を置いた。これらの専攻には他の課程からも進学ができ、11月と翌2月に学内で進学相談会を行ない、学生数の増加をはかった。

### 2. 教育・研究

研究においては企業や公共団体より産官学の提携の要請がますます強まり、共同研究やコラボレーションといった形のニーズが増えてきており、グループ研究をメインにそれらの要請にも答えられるよう範囲を広げ、研究者の共通認識を持てる研究体制づくりをした。今年度も産・官から、18の共同研究やコラボレーションの要請があり、その対応を行った。特に、コラボレーションで代表的なものは、ここ数年にわたって行なっているもので、中央区及び横山町・馬喰町の間屋街活性化委員会と共同での街おこし「トンヤ de サファリ」、(株)フレックスジャパンとの「メンズシャツデザイン」、(株)松尾との「ウェディングファッション」などや、19年度立ちあげたもので、(株)

資生堂との「ストリートファッション共同研究」、(株)トリンプとの「世界インナーファッションコンテスト」の共同コラボなどがあげられる。

### 3. 設備

学生の体型に合わせ、3年前より徐々に講義室および教室などの机や椅子を大きなものに変更しており、本年度で取替えが完結した。

### 4. 留学生

19年度の留学生の出願数は、前年を40名上回って274名となり、18年度に引続き増加傾向にある。入学者230名を含めて留学生の総数は478名となり、19年度期首在籍の9.2%を占める。

韓国・台湾等を中心に「文化服装学院」の認知度の高さを前提として、インターネットを中心に据えた広報や、例年の三校による告知イベントが一定の効果をもたらしたものと考える。

留学生の増加に伴い、習慣の違いや言語能力の不足、アルバイトや就職活動等を原因とした学习上、あるいは生活上の齟齬も表面化しており、今後の課題となっている。

### 5. 学生生活

1) 19年度は学生相談室の開室を平日に加え隔週土曜日にも行うようにした。医務室との連携も十分にとれる体制になっている。

学生の多様化、とりわけ様々な問題を抱え込みがちな学生へのケアと、心身面でグレイゾーンにある学生のフォローを、教員・教務部を含めて学院全体でどう対応するかが、今後の極めて大きな課題となる。

2) 奨学金受給者は全体でほぼ800名と前年に比較して大きな変化はない。奨学金の必要性和手続きの告知等、学生への広報がある程度奏功しているものと思われる。

### 6. 学生募集

平成19年度の学生募集は、4月の期首在籍数として5,197名で前年比155名の増加となったが、内訳は 部上級生と 部新入生の増であり、 部新入生は減少、同時に留学生を除く 部出願者数も減少して2,000名を割り込む結果となった。

募集方法についてはほぼ前年と同様で「文化服装学院を理解する」ことを目的に、各種の案内書・インターネット・雑誌等の媒体とガイダンス、学校見学・高校生セミナー・ファッションフェスティバル等をひとつの流れとして組み立てた。また、19年度に創設した「高校生ファッション・デザイン・アワード」は他校や他団体の参加者数をしのぎ、いわゆる裾野の広がりを期待できる結果であった。

### 7. 就職対応

専門学校にとって専門教育を重ねていく結果、きちんとした就職へ結びつけ、学校としての評価を受ける。それだけに、教員と就職指導室がますます相互に協力しあって、しっかりとミスマッチのない就職対応に努めた。また卒業者に対しても就職・再就職の道を開き相談も受けている。この就職への意識を高めていくため、1年次から教

員との協力体制を組み、一部カリキュラムへの取り込みをはかりながら、学生の就職意欲を上げていけるような体制作り着手した。同時に、教員が学生就職のキーパーソンになっていることから、企業研究も含め産学交流会等に参加を促し、より一層、産と学が連携できるようにした。

#### 8. 生涯学習 50 年

19 年度は通信教育が始まって 50 年の節目にあたり、11 月 1 日に祝賀会、50 年史の発行、5 年ごと節目に行なっている親睦旅行（中国・大連へ）、そしてヴィオネ研究による特別展などを実施することができた。どれも 60 年、70 年に向けての出発点になったと思う。

### < 専門学校 文化服装学院広島校 >

#### 1. 文化服装学院広島校設置

広島キャンパスでは、専門学校 文化服装学院広島校と校名変更を行い、平成 20 年 4 月開校に向けて本校に準ずるようなファッション教育が行えるよう、諸準備を行った。家政専門課程にアパレルデザイン科とトータルファッション科を置き、平成 20 年 4 月開校に向け生徒募集を開始した。学校見学、ガイダンスに加え、9 月には広島市において本校の学生によるファッションショーを行うなど、広報と募集活動を行う中で 59 名の新生が確保できた。

校名変更等で年度途中からの募集活動であったが、初年度としてはまずまずの結果となった。

### < 文化外国語専門学校 >

#### 1. 教育内容の充実強化

- 1) IT を利用した授業を実施するため、日本語教材のデジタル化に取組み、パワーポイントの積極的な活用や、プロジェクターと書画カメラを利用した授業を実践することができた。
- 2) 校友会の韓国支部総会を平成 20 年 3 月 29 日にソウルで実施し、卒業生の意見を取り入れたカリキュラムの見直し、韓国内の日本語教育事情の把握など大変意義のある総会となった。台湾支部の校友会総会は平成 20 年 11 月頃に実施を予定している。

#### 2. コラボレーション

NPO 法人「国際日本語コミュニケーション研究所」と共催で韓国語・中国語・フランス語講座を実施した。

### 3. 学生募集

専門課程の日本語教師養成科・国際通訳翻訳科の募集活動として、国内の日本語学校を30校ほど訪問した。その結果を含め、54名（前年度34名）の留学生を入学に結びつけることができた。文化外国語専門学校全体の2008年度4月における期首在籍は、265名（前年度243名）となる。

## 附属機関

### < 図書館 >

#### 1. 教育・研究活動及び学習活動拠点としてのサービスの充実について

##### 1) 教育部門との連携強化による、効果的な蔵書体系の構築

比較的高額で類書が多い美術・建築関係の、洋書の現物による見計り選書業務に、大学、大学院大学、学院の代表教員が参加し、専門家としてのアドバイスを行なうようになった。

##### 2) 教育用LAN利用による利用者サービス（予約資料・延滞資料等に関わるメール連絡など）の試験的な運用開始した。また、貴重書画像データベース配信の準備として、プロジェクトチームを結成し、対象資料およびシステム等を検討。具体的な計画を提示し、次年度からの3ヵ年計画で実施する。

##### 3) 府中新書庫からの資料デリバリーの実施。

##### 4) 学生とは別に教職員用の「図書館利用案内」を作成し、非常勤講師を含む全員に配布した。

##### 5) 館内閲覧室の美化3年計画の2年目として、照明や椅子等を整備。

#### 2. 資料の有効利用と効果的保存に関する対策

##### 1) 書庫増設に伴う新都心館、小平館、府中書庫間の資料移動・整理により保管場所を調整し、また書架の、増設、入替を行った。

#### 3. 業務の整備

##### 1) 遡及データ入力の推進

貴重書およびピクチャーライブラリーをほぼ完了した。

##### 2) レファレンスツールの拡充

図書館ホームページに「テーマ別調べ案内」サイトを追加し、レファレンス事例（国会図書館レファレンス協同データベース当館作成分へのリンク）と、館員作成のパスファインダー（探し方の事例）を掲載。

##### 3) 小平図書館の図書資料の発注・整理業務を新都心館に1本化すると共に選書の決定

手順など、業務処理方法の統一を行った。

## < 服飾博物館 >

### 1. 収集

資料数総計 59 件 ( 購入 17 件、寄贈 42 件 )

### 2. 展示

#### 1) 館内展示

ヨーロッパ・ファッション 1760-1960 ( 128 点 4.19-6.13 )

絹ものがたり 日本の伝統服飾にいきづく絹文化 ( 69 点 7. 3-9.22 )

世界の刺繍 - 技と心 - ( 153 点 10.17-12.18 )

オペラ座の夜 - アントワープ・ダイヤモンドジュエリー

HRD 賞コレクションとイブニング・ドレス - ( 31 点 08.1.25-3.15 )

#### 2) F 館 4 階工芸室

古代文明の造形 ( 74 点 08.3.6 ~ )

#### 3) 北竜湖資料館

郷土玩具 ( 343 点 08.4.23.-10.31 )

ロシアと周辺諸国の民芸 ( 49 点 08.4.23-10.31 )

#### 4) 展示協力

「岸が上がった花火 - 宮永愛子」 主催:(株)資生堂 ( 貸出 3 点 08.6.16-.7.15 )

「シルクロードをめぐる美の物語 - 東アジアから奈良へ - 」主催:(株)ミキモト  
( 貸出 47 点 08.9.27-.10.2 )

「エジプトの小さなガラスの円盤」主催:横浜ユーラシア文化館  
( 貸出 2 点 08.1.26-5.18 )

### 3. ギャラリートークの開催

#### 1) 一般観覧者向

「ヨーロッパ・ファッション」, 「絹ものがたり 日本の伝統服飾にいきづく絹文化」, 「世界の刺繍 技と心」, 「オペラ座の夜」

#### 2) 学内教職員向

「絹ものがたり」

#### 3) 一般グループ見学者向 年間を通じて約 30 件

### 4. 図録『世界の刺繍』等の発行

### 5. 展示記録、博物館資料の整理及び資料・フィルム貸出

### 6. 学校教育支援

#### 1) 文化女子大学学芸員課程実習

服装学部 44 名 造形学部 44 名 現代文化学部 7 名

- 2) 文化女子大学服装学部 3 年授業「ファッション史研究」(13 回)  
文化女子大学服装学部服装社会学科 3 年「民族服飾 A」での所蔵資料の着せ付け  
実演(1 回)
- 3) 文化服装学院 AD2 年特別講義「民族服について」(3 回)
- 4) 文化ファッション大学院大学授業「日本伝統服飾概論」(6 回)
- 5) 文化服装学総合研究所主催公開講座での展示解説(2 回)

## <ファッションリソースセンター>

1. ファッションリソースクラブの会員制推進  
法人会員 2 社、正会員 1 名、会友 2 名が新規加入。
2. 産学交流事業の推進
  - 1) テキスタイル産地・企業等との産学連携で現地体験学習(ワークショップ)  
八王子・奥田染工、福井・山崎ビロードと 2 回実施し、113 名参加。
  - 2) デザイナー作品展及び講演会  
ハッピーアニバーサリーケーキ展、FRAPBOIS,matohu,YLANG YLANG,  
JOTARO SAITO,DRESS CAMP、大塚勇造各作品展など入場者合計 17,656 名。
  - 3) テキスタイルメーカー、服飾資材メーカー等との共同研修会  
パイルの競演展入場者 734 名、  
三菱ソアロン展入場者 1,160 名、同・セミナー参加者 412 名  
三菱ソアロンデザインコンテスト応募者 170 名となった。
3. 業務運営
  - 1) 学校教育支援  
通常施設利用者 2,830 名、新入生利用説明会 2,534 名となった。
  - 2) テキスタイル資料室  
素材資料収集・播州産地等素材 162 点収集。  
テキスタイルデザインソフト 4 Dbox 学生向け無料研修会を、延べ 8 回開催し、  
参加者 144 名となった。
  - 3) 映像資料室  
コレクション画像データベースの更新・拡充を行い、累計データベース数は  
11 万 2 千点に達した。  
コレクション、教材・音楽・語学、映像等の資料充実のため 119 点収集。
  - 4) コスチューム資料室  
移管・購入・寄贈等で 72 点、122 セットを収集した。  
コスチュームギャラリー展示(F 館 4 F)  
2006 コンテスト受賞作品&2007S/S コレクション展、装苑賞受賞作品展

THE WIZARD OF JEANS 展、チャンネル展を開催。入場者は合計で約 11,000 名。

## < 国際交流センター >

### 1. 学術的交流及び海外留学プログラム開発・支援

国際交流センターでは、グローバル化の具現化のために、「国際社会で通用する人材の育成」を重点課題と捉え、IFFTI 会員校など世界的なファッション教育機関との学術・文化交流を積極的に行った。

#### 1) 学術交流

5月9日、在日デンマーク大使館との共同イベントとして、世界的に有名なデンマーク人デザイナーでブランド開発者としても知られているピーター・イングアセン氏による講演会を実施した。世界的な環境問題解決にファッション業界がどのように貢献すべきであるかなどについて学ぶ機会を設けた。

6月11日から7月29日にかけて、国立スウェーデン・テキスタイル大学( IFFTI ) からソークエスト博士を招へいし、滞在中に本学学生を対象としたワークショップとセミナーを行った。発想法とプレゼンテーション技術の向上を目的としたセミナーは、多くの学生を奮起させた。

10月3日、英国、ロンドン・ファッション大学( IFFTI ) から、バツシャ・スクツニッカ教授が来校し、ファッショントレンドについてのセミナーを行った。トレンドコンサルタントとしても世界的に有名なスクツニッカ教授によるグローバルな考え方と行動力溢れるバイタリティに学生は感動した。

#### 2) 海外留学プログラムの開発・支援

これまで現代文化学部の学生のみ対象としていた米国・ニューヨーク州立ファッション工科大学と英国・ノッティンガムトレント大学の留学プログラムを新宿キャンパスの服装学部の学生も対象とした。さらに、ノッティンガムトレント大学との協力によりポールスミス奨学金も開発し、募集を開始した。秋には、留学準備のためのトータル講座も開始し、25名の受講者が熱心に受講した。

### 2. 留学生交流促進

日本人学生と留学生との交流、または留学生同士の交流促進を目的として、さまざまな活動をした。

#### 1) 留学生の交流

7月、文化女子大学バトミントン部の学生と文化外国語専門学校の留学生名がバトミントンを通してスポーツ交流。

11月文化祭で本学園の教職員提供の「フリーマーケット」を留学生センターで開催し、その後も継続して支援を行っている。

2月「第6回 留学生短歌コンテスト」の表彰式と懇談会を学内で行った。

### 3. 各校の留学生募集強化を支援

2007年5月で1,167名であった留学生数が本年度4月時点で約12.5%増の1,313名となった。特に韓国から文化服装学院への出願が増え、韓国籍留学生数が484名から589名と21%増と顕著であった。

今後も韓国、台湾、中国を中心に留学フェアなど積極的な広報活動を展開し、引き続き目標としている2011年までに1,500名を確保したい。なお、ブリックス諸国（BRICS）のブラジル及びロシア、さらにスリランカやマレーシアとの交流の糸口を見出したので、2008年には学生募集としてマーケティング戦略のもと積極的に行動する。

文化服装学院韓国留学生会によるファッションショーに合わせて、本学設置4校合同による留学相談会（2008年3月28日）が、ロッテワールドホテルで開催され、高校生・大学生を中心に1,500名あまり来場し、成功裏に終了した。

## < 知財センター >

### 1. 権利化活動状況

特許出願を2件（「染色方法及びその装置」発明者 角田教授他、「織物製品及び織成方法」発明者 閔間教授他）と商標更新を11件、他に特許更新を2件（「衣服の製作方法」）、実用新案更新を1件（「洋裁用製図定規」）と意匠更新を4件（「洋裁用製図定規」）を行った。

### 2. 講演会の開催

学園各校の教職員や学生への啓蒙・普及活動として、文化学園知財センター主催第1回講演会「ファッションと知的財産の国際的保護について」を11月に開催。講師は杉山・木村国際特許事務所で弁理士の木村高明所長。

### 3. 発明に対する対価の収入、支払に関する管理

「染色方法及びその装置」の出願時対価の支払い。

文化学園帰属の発明によるライセンス収入

「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」のシステム販売による収入。

### 4. 特許権侵害への対応

学園所有の特許第2711799号（衣服の作製方法）に対する特許侵害について協議。

## 収益部門

### <文化出版局>

#### 1. 平成 19 年度の事業計画として総収入を 52 億 1,225 万円とした。

平成 19 年度の営業収入を販売・広告部門の部門別に見ると、雑誌販売売上の年度予算達成率は 92%、書籍販売売上の年度予算達成率は 93.9%となった。広告売上の予算達成率は 83.3%、前年比では 92.3%。従って、その他を合わせて営業収入合計で予算達成率 89.8%となった。

#### 2. 平成 19 年度における雑誌部門・書籍部門について

平成 19 年度の雑誌合計 40 回刊行については、『スタイルブック』増刊の刊行を 1 号中止し、年間合計 39 回とした。これは、出版業界の悪化による多大な返品状況を鑑みて決定した。

『装苑』の販売売上は前年比 92.6%で、広告売上においても前年比 85.8%と売上が減少し、『ミセス』についても販売売上は前年比 93.5%に、広告売上についても 92.3%で 7.4%減少になった。また、『HF』の販売売上は前年比 89%と減少したが、広告売上はハイクオリティな編集がスポンサーに評価され 113%と増加した。

『スタイルブック』の販売売上は前年比 101%、広告売上は 123%と前年実績を上回った。

『銀花』の販売売上・広告売上は僅かに前年実績に届かなかった。

書籍部門の平成 19 年度販売収入の年度予算達成率は 89.3%。対前年比の実売で 86%と大幅に減少した。

このような販売収入の大幅な落ち込みの背景には、出版界の長期不況傾向が平成 19 年度において顕著で、地方中小書店の廃業・倒産が相次ぎ、書籍の返本率も依然として改善されないことにある。今後は書店ルートのみ限定しない新たな販路の開拓が急務となる。

広告収入減少の大きな要因は、平成 19 年度は『マリソル』『グレース』などミセスの競合誌が新創刊され、例年にも増して婦人誌を対象としたスポンサーの広告費を分け合う結果となったことにある。さらには約 5 千億円といわれる日本の雑誌広告費はこの数年、前年実績を下回っていることも要因の一つとなっている。

#### 3. 通販事業について

通販課は平成 19 年の売上収入予算に対し、収入実績は 76%に留まった。前年実績比においても 89%と減少した。これは年間 3 回の刊行を予定していた通販カタログを諸般の事情で 2 回の発行に減少したことが原因となる。しかし、利益改善に努めた結果、

通販部門の赤字はやや改善された。

#### 4. デジタルメディア事業について

デジタルメディア事業を本格的に展開することとして開発経費を予算計上した。スケジュールはやや遅れたが、ファッションポータルサイト「FashionJP」を平成20年4月にオープンし、今後はオンラインショッピングとWEBコンテンツを充実させ収益を上げていく予定。

#### 5. 総括

平成19年度においては、売上原価の削減及び営業収入の予算達成を最優先課題とした。雑誌部門においては広告・販売売上は前年より減少したが、差引利益では前年比約6000万円の改善が出来た。しかしながら、出版界の長期不況傾向が続くなか書籍部門の売上が大幅に落ち込み、その結果として局全体の経常利益を悪化させてしまった。書籍部門の販売売上の立て直しと利益率の改善が平成20年度の文化出版局における最優先課題となる。同時にデジタルメディア事業のスケジュールはやや遅れたが、ファッションポータルサイト「FashionJP」を平成20年4月にオープンし、オンラインショッピングとWEBコンテンツを充実させ収益向上に努める。

## <文化事業局>

#### 1. 平成19年度の売上高について

平成19年度の総売上高は50億7,382万円で予算達成率100.8%となった。

部門別に見ると「購買部」の売上高は予算達成率100.7%で、「ビル研修旅行部」の売上高は予算達成率100.9%となった。

文化北竜館（宿泊数18,157人・目標達成率103.8%）及び文化軽井沢山荘（宿泊数2,881人・目標達成率144.1%）は「集客三ヵ年計画」の一年目の目標を達成し、前年に比べ宿泊数で、3475人（前年比119.8%）、売上高で2730万円（前年比114.7%）の増加となった。

#### 2. 購買部

- 1) 連鎖校及び関連校の学生数が減少する中で、予算案達成のため授業内容の変更等に対しきめ細かい対応や学園の諸行事に対する協力・支援を積極的に行い、売上高確保に努めた。また平成20年度以後の計画検討のため、教職員及び学生のニーズを把握するためのヒアリング調査を行い、今年度も継続する。
- 2) 文化事業局のホームページ充実と合わせて、購買ネットショップを試行的に立ち上げ、10月から3月までの6ヶ月間に約300万円（300件余）の売上げと2万件程度のアクセス数の結果を得ることができ、平成20年度からの本格稼働に生かしていく。

### 3. ビル研修・旅行部

- 1) ビル事業関係では、一部テナント(スクエア・グローバル・タイター)の賃料改定が順調に進み、差額部分の改善をすることができた。またファイザーからの返室部(500坪)の半分及び2F店舗部のテナントも決定することが出来た。ビル事業全体としては昨年度並みの収益性を確保し、教育部門に貢献することが出来た。
- 2) 研修センター関係では、いいやま匠大学、小菅祇園祭、森林セラピー、等の新企画に積極的に取り組み、学生数減少をカバーして宿泊数を伸ばすことが出来た。今後も地元、地域との交流を深め、収益性の一層の改善に努めたい。

## 学園本部

### < 学園総務本部 >

#### 総務部 人事厚生部

1. 文化女子大学室蘭短期大学の学生募集停止に伴い、市役所及び地元の諸団体との調整を行った。また、短大職員と複数回の面談を行い、平成20年度以降の対応について方向付けを行った。
2. 文化服装学院広島校開校準備のため、支援及び諸調整を行う。
3. 八王子総合グランド売却のため、創価大学と交渉し、売買条件の整理を行った。
4. 学園の教・職員に対し2回目となる「災害救援ボランティア講習会」を開催し、50名が受講した。救命措置等の訓練を含め、災害時はもとより、通常時における救護活動に備える要員として、2回で延べ100名の上級救命技能者が学園に在籍することになった。
5. 9月に中堅職員に対する研修、3月に新規採用者に対する研修を実施。

#### 施設部

1. 文化服装学院広島校の平成20年4月の開校に向けて、施設全般の整備を行った。
2. 八王子総合グランド売却のための関係資料の整理及び施設整備確認を行った。
3. 検討課題であったE館周りのテント設置について関係官庁との調整が終わり設置工事を行った。
4. 省エネ、CO<sub>2</sub>の削減、光熱費の節減を引き続き実施した。
5. 行政指導に伴うポリ塩化ビフェニル廃棄物(PCB)の処分について平成19年度の廃棄処理を予定していたが、東京都の処事情形により、平成20年度に先送りした。

## 健康管理センター

1. 健康管理センターおよび医務室は学生の心身の健康維持を図るため、健康診断、感染症の対応、メンタルヘルス面と全学的な健康管理に努めた。本年度初めには麻疹の対策に追われた。

## < 学園経理本部 >

### 経理部

1. 経済状況と少子高齢化の影響により、厳しい財務状況の中、効率の良い業務を目指し経理業務を遂行した。
  - 1) 平成 18 年度決算書を作成し、平成 19 年 5 月 29 日の理事会、評議員会に諮り公認会計士の監査を受け各所轄官庁へ提出。
  - 2) 平成 20 年度「学校会計」及び「収益事業会計」の予算書を作成し、平成 20 年 2 月 28 日の評議員会、理事会に諮る。
  - 3) 平成 19 年度決算書作成業務を進めるとともに、八王子グラウンドおよび八王子テニスコートの売却に伴い基本金の取崩し等を行う。

### 財務部

- 1) 2 号基本金へ 5 億円を積立てた。
- 2) 特定預金の減価償却引当金へ 2 億円を積立てた。
- 3) 八王子総合グラウンド及びクラブハウス施設一式を、学校法人創価大学へ売却した。
- 4) 八王子テニスコート 2 面を含む 6,351 m<sup>2</sup>を分筆し、学校法人文化杉並学園へ売却した。
- 5) 上記売却代金のうち 2 0 億円を、特定預金の教育施設充当特定引当資産へ積立てた。

### E D P 室

1. 平成 1 9 年度については、教育・事務系ネットワーク、及び、各業務システム等の維持・管理・運営等、及び、学内業務のサポートを行った。また 汎用機システムのオープン化についても引き続き調査検討を行った。
2. I T 推進室を E D P 室に統合し I T 推進課として教育系ネットワーク構築の検討等を引き続き行った。

- 1) 学生ポータルサイトの構築・運用開始  
全学生へのメールアドレスの付与・ポータルサイトを活かした学生への効率的な情報提供のサービスを構築した。19年度は大学が先行して運用を開始した。
- 2) 附属機関データの有効活用  
学内WEB公開に向けて各機関（FRセンター・博物館・図書館）のデータベース環境を調査した。各機関のデータフォーマットが異なることから、可能な限り一元化する方法を検討。
- 3) 大学事務システムの再構築  
各部署とのシステム再構築の為の意見をまとめ、中間報告書を作成。  
WEB履修・WEBシラバスの導入も含めオープン化に向けての準備・検討を進めた。
- 4) インターネット・情報セキュリティへの取り組み  
情報漏洩対策の一環としてメール検疫（情報ログ閲覧）システムを構築した。

## 監査室

平成20年1月に設置し、理事長直轄として学園のコンプライアンスや各部署の機能的なもの等を内部監査する。

1. 「監査室規範」「監査室監査規程」「公益通報に関する規程」「監査室業務分掌」の作成。
2. 調査・報告  
大学・学院・外語の学生募集費の調査・報告。
3. 監事監査補助  
ビル・研修・旅行部業務監査 サポート。

### 3 財務の概要

平成 19 年度の事業計画に基づいて実施された主な事業内容は次のとおり。

- 1) 学園内の IT 関連整備の推進は、学生用ポータルサイト等の開発を中心に行い、学生サービスの充実を中心に行った。(6,300 万円)
- 2) 文化学園の特色となりつつある、教育界やファッション産業界とのコラボレーションを積極的に推し進めた。具体的には文化服装学院がファッション業界との協力により各種イベントを行い、文化ファッション大学院大学では国の委託事業により繊維業界と地方独立行政法人を含めた研究開発を行った。又大学においてはいいやま匠大学を開学し地域(行政・産業)との連携を図った。このような資金として受託事業収入は 3,300 万円となっている。
- 3) 文化服装学院広島校は平成 20 年度開校のための準備として、新都心キャンパスと同じ高度な授業が出来る設備を整備した。又、中国地方を中心とした学生募集を行うための初年度としてテレビ放映を含む広報活動を行った。(準備経費 5,400 万円)
- 4) 文化ファッション大学院大学は完成年度を向かえ、専門職大学院として必要な教育環境整備(ハード、ソフト)を行った。(教育研究経費及び機器備品で 6,800 万円)

## 決算概要

### 1、資金収支計算書

#### 1) 収入の部

学生生徒等納付金収入は 110 億 9,500 万円となるが、学生数は 10,899 名で、平成 18 年度比では学園全体で 167 名増のため、9,800 万円増となった。手数料収入は 1 億 4,200 万円で入学検定料が大部分を占めている。補助金収入は 8 億 4,400 万円となり、内 6 億 9,600 万円が国庫経常費補助金である。資産売却収入は 22 億 700 万円で内 21 億 6,500 万円が八王子グランド及びテニスコートの一部売却分である。事業収入の 8 億 9,500 万円は、収益事業からの 5 億円の寄付金とオープンカレッジを中心とする公開講座等の受講料や学生寮の寮費収入、外に受託研究、受託事業等、教育・研究を補完する重要な収入である。雑収入は 8 億 5,700 万円となるが、内 5 億 3,200 万円は退職金財団交付金収入である。

#### 2) 支出の部

人件費支出は退職金関連支出が 5 億 4,900 万円含まれているが、全体では 77 億 2,200 万円となった。教育研究経費支出の 22 億 3,300 万円は教育・研究に直接要した費用となる。また教育・研究を間接的に支援する為の学校経営に要する管理経費支出は 11 億 1,600 万円で、学校経営上の管理的施設・設備の維持、管理費、学生の募集経費等が計上されている。その他では、借入金の返済支出として 14 億 4,700 万円を計上しているが、その内 8 億 5,900 万円は日本私立学校振興・共済事業団からの借入に対する返済となる。施設関係支出は大規模な建物工事は無く、E 館横テント工事を除けば小規模工事であった。設備関係支出の 2 億 2,400 万円は、新都心、小平キャンパスの機器備品等の購入したものの。次年度繰越支払資金は 72 億 3,400 万円となり、前年度より 3 億 5,100 万円の増であった。

## 2、消費収支計算書

消費収入は、帰属収入 140 億 7,200 万円から基本金組入額 5 億円を控除した金額で、135 億 7,200 万円となった。消費支出は、教職員の人件費、教育研究活動及び法人の運営に必要な諸経費で、本年度は 137 億 1,400 万円となる。この中には八王子グランドの売却に伴う資産処分差額 6 億 8,300 万円が入っている。翌年度繰越消費支出超過額は、八王子グランドの売却等に伴い 1 号基本金の取崩が 19 億 6,700 万円あるため減少して 123 億 9,400 万円となり、基本金組入前消費収支差額では 3 億 5,800 万円である。

## 3、収益事業部門

収益事業部門は、文化出版局、文化事業局（購買部、ビル・研修・旅行部）の収益と費用を表したもので、損益収入は、文化出版局の書籍・雑誌等の売上や広告料収入、購買部の商品売上等が 66 億 9,500 万円、ビル管理部のビル賃貸料収入等が 29 億 8,600 万円で、収入合計が 97 億 700 万円となる。損益支出は、営業費用として売上原価が 59 億 400 万円、販売費及び営業費として 27 億 300 万円、その他の支出として 5 億 1,300 万円を計上しているが、この中には学校会計への寄付金 5 億円が含まれる。その結果、収益事業部門は当期利益として 2 億 8,800 万円を計上した。

## 平成19年度 資金収支計算主要科目決算比較表

学校部門

(単位:百万円)

資金収入	19年度決算	18年度決算	差異
前年度繰越支払資金	6,883	7,647	764
当年度資金収入合計	16,154	14,006	2,148
学生生徒等納付金収入	11,095	10,997	98
手数料収入	142	163	21
寄付金収入	3	11	8
補助金収入	844	874	30
資産運用収入	135	106	29
資産売却収入	2,207	143	2,064
事業収入	895	847	48
雑収入	857	833	24
借入金等収入	400	0	400
前受金収入	4,294	4,718	424
その他の収入	651	564	87
資金収入調整勘定	5,371	5,251	120
期末未収入金	652	539	113
前期末前受金	4,718	4,712	6
<b>資金収入合計</b>	<b>23,038</b>	<b>21,654</b>	<b>1,384</b>

資金支出	19年度決算	18年度決算	差異
当年度資金支出合計	15,803	14,771	1,032
次年度繰越支払資金	7,234	6,883	351
人件費支出	7,723	7,527	196
教育研究経費支出	2,233	2,281	48
管理経費支出	1,116	1,081	35
借入金等利息支出	261	290	29
借入金等返済支出	1,447	1,395	52
施設関係支出	49	340	291
設備関係支出	224	505	281
資産運用支出	2,701	1,001	1,700
その他の支出	396	694	298
資金支出調整勘定	345	344	1
期末未払金	345	344	1
<b>資金支出合計</b>	<b>23,038</b>	<b>21,654</b>	<b>1,384</b>

上記のそれぞれの表の金額は、百万円未満を四捨五入している為  
合計などの数値が計算上一致しない場合がある。

## 平成19年度 消費収支・損益計算書決算比較表

学校部門

(単位:百万円)

消費収入	19年度決算	18年度決算	差額
学生生徒等納付金	11,095	10,997	98
手数料	142	163	21
寄付金	10	180	170
補助金	844	874	30
資産運用収入	135	106	29
資産売却差額	93	29	64
事業収入	895	847	48
雑収入	857	833	24
帰属収入合計	14,072	14,029	43
基本金組入額合計	500	2,580	2,080
収入合計	13,572	11,449	2,123

消費支出	19年度決算	18年度決算	差額
人件費	7,430	7,456	26
教育研究経費	3,620	3,737	117
管理経費	1,520	1,480	40
借入金等利息	261	290	29
その他の支出	883	112	771
支出合計	13,714	13,075	639
当年度消費支出超過額	142	1,626	1,484

収益事業部門

(単位:百万円)

損益収入	19年度決算	18年度決算	差額
売上代金	6,695	7,192	497
賃貸料収入	2,986	2,968	18
その他の収入	26	51	25
収入合計	9,707	10,210	503

損益支出	19年度決算	18年度決算	差額
借入金等利息	299	312	13
売上原価	5,904	6,152	248
販売費	895	1,043	148
営業費	1,808	1,675	133
その他の支出	513	986	473
支出合計	9,419	10,168	749
収支差額	288	42	246

上記のそれぞれの表の金額は、百万円未満を四捨五入している為、合計などの数値が計算上一致しない場合がある。